日刊 動労千葉
79.9.20
No.229
国鉄千葉動力車労働組合
千葉市要町二-一八（動力車会館）
（鉄電）二二五八～九・（公衆）〇四七二（22）七二〇七

労農連帯を一層強め、三里塚・ジェット闘争を貫徹しよう！

# ジェット増送阻止 国際反戦デー 10・21に全力決起する！

## 三万名の暴力オルグを粉砕したこの力で、労働運動の流れを変える 三里塚、反戦闘争を！

9・16三里塚闘争は二万名の大結集をもって、政府・公団・森山の「話し合い」による三里塚闘争解体の願望を粉々にうちくだいた。連日の組織破壊攻撃と対決しぬき二二〇名の隊列で参加した動労千葉を代表して関川委員長が闘いの経過と10・21へむけた断乎たる決意表明を行った。　発言の要旨を掲載します。（一部加筆）

◆関川委員長があいさつ

御紹介いただきました関川であります。国鉄千葉動力車労働組合一四〇〇名を代表して今日までの経過と二期工事粉砕・ジェット増送阻止にむけての決意を申し上げたいと思います。

本日の9・16闘争は、私達一四〇〇名にとりましても極めて意義深いものであります。一年前の9・17三里塚集会へは私どもは動労「本部」からの〝統制処分〟のどう喝をはねのけてこの会場に参加したものであります。御承知のように昨年の津山における動労全国大会は、「空港反対同盟と連帯して三里塚・ジェットを全国闘争として闘う」という従来からの全国大会決定方針を完全に一変させて、あの悪名高き『一線を画する』なる反対同盟敵視＝三里塚ジェット闘争解体の方針を決定し押しつけてきました。以来、私どもは職場での徹底した討論をつみ上げ、ギリギリの決断をもって、正義を守る闘い、動労の反動的私物化をうちくだき改革する闘いへと決起しました。いまだ経験したことのないありとあらゆる困難・理不尽極まりない集中攻撃・試練をうけた訳であります。三里塚を闘うが故の三二名への除名や権利停止・機関紙の発行停止、デマ宣伝等に加え、本年一月からは各職場や家庭さらには乗務先の出先でまで暴力的撹乱ないしは懐柔の組織破壊攻撃をうけてきたわけであります。

◆三里塚・ジェット闘争が一四〇〇名をうち鍛えた

しかし一四〇〇は勝ち切りました。とりわけ4・17津田沼支部への襲撃のための襲撃、革マル潜入分子を使っての支部デッチ上げ策動、のべ三万名を越す全国「オルグ」等々と連日対決して今日まで勝ちぬいてきました。そして一年をめぐった今日、完全に変質腐敗した動労「本部」とたもとをわかち、新生「動労千葉」は闘いの正義と決意を全国に示すためにも、本日の9・16現地闘争に組合員二二〇名の部隊をもって参加しております。

権力・当局・革マルおよび一部の右翼的潮流による集中攻撃というこのかってない空前の大攻撃に勝ちぬけた力、それは「労農連帯の正義をつらぬく」というこの一点に一四〇〇が団結し切った所にあったと断言して過言ではないと思います。一四年間不屈に闘いぬいてこられた反対同盟の方方から私どもが学び引き継いできた貴重な宝、勝利の武器はこれであったといわねばなりません。

◆二期工事決戦の勝利が80年代の展望をひらく

先程来の基調報告や挨拶等でも述べられましたように、二期工事をめぐっての政府権力からの攻撃は反対同盟やそれを支援する多くの皆さん方にすさまじい形でおそいかかっております。だからこそ私達は、今、右傾化と分解を続けている総評労働運動に対して、今こそ闘いの原点・労働運動の背骨をしっかりとうち立てて再建していかねばなりません。八〇年代を展望し、今日まで闘いぬいてきた力を全て結集し、この流れを大きく変えていく運動が求められております。その結集軸こそ、今開始された三里塚二期工事決戦だという事をはっきりと確認したいと思います。

◆労働運動の右傾化に抗し10・21に全力決起する！

かって総評はベトナム侵略戦争に反対して全世界に10・21国際反戦闘争をよびかけて闘ってまいりました。

総評の危機・労働運動の危機の下で10・21国際反戦闘争の形骸化が叫ばれる中で逆に日本のアジア侵略・軍事的膨ちょうは眼にあまる勢いで進んでいます。このときにあたり私ども動労千葉は、自らの課題をかけて、組織破壊攻撃に勝ちぬくことを通し、労働運動の流れを変えるべく10・21国際反戦デーを二期工事粉砕・ジェット増送阻止の断乎たる闘いとしてうちぬくことをはっきりと決意したいと思います。本年の10・21国際反戦デーを三里塚反対同盟が中心軸となって全労働者、農民、学生、住民に広くよびかけ、三里塚の地を実現するという画期的な方針を断乎として支持し、私ども一四〇〇もジェット増送を必ず阻止する断乎たる闘いをもって決起することを申し上げまして私どもの決意表明といたします。

全組合員・家族の強固な団結で組織破壊攻撃を粉砕せよ！